

## 平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

## 実施団体名

美唄市

## 代表団体名

同上

## 事業名称

美唄郷土情報による地域活性化モデル事業

## 1. 事業実施概要

全国有数の炭鉱地域で栄えた美唄市は、昭和30年代の9万人の人口をピークに、その後の閉山に伴う減少が止まらず、現在では約2万7千人となっています。産業においては炭鉱から農工一体の産業転換を図り、現在の基幹産業である農業においては、北海道でも優良な穀倉地帯としての地位を確立して参りました。近年では、「おぼろづき」「アスパラ」「ハスカップ」などの農産品や歴史ある「やきとり」「とりめし」などが札幌で評判になるなど、地域ブランドになりえる特産品が出てきており、この魅力ある農産品・特産品や地域資源などの知名度を向上し、地域の活性化を図るべく、ICTを利活用した「美唄郷土情報による地域活性化モデル事業」の推進に取り組んで参りました。事業で構築した”美唄ファンポータル「PiPa」(ピパ)”では、美唄の農産品・特産品の歴史と魅力、生産者の想いなどを投稿により伝え、観光広報とともにブログやSNSで地域交流を可能にするなど、美唄ファンによるまちおこしを目指しています。

## 2. 目標の進捗状況

指標	目標値	現状の数値	期末の達成見込み	計測方法・出展等
特産品、農産品、およびブランド化に向けた地域課題を解決するためのローカルレシピや生産者情報のDB化	DB化件数 50 件 (H19 から累計 150 件)	196 件	○	DB 登録数
観光資源およびナビゲート情報など、課題を解決するための情報のDB化 動画配信件数 移住情報登録件数 地場産業 PR 件数	DB化件数 50 件 (H19 から累計 100 件) 配信件数:10 件 DB登録件数:50 件数 PR件数:10 件	162 件 18 件 72 件数 17 件	○	DB 登録数
消費者に信頼される安全で良質な農産品、特産品づくりや、安定した経営確立のため優れたバランス感覚を持つ、担い手の育成・確保を行うための情報のDB化	DB化件数 10 件 (H19 から累計 30 件)	31 件	○	DB 登録数

各種サークルや団体など、地域間の交流およびかつて住んでいた住民などのコミュニティの形成・促進を行うために、SNS 環境を提供し、地域コミュニティを形成	DB化件数 100 件 (H19 から累計 400 件)	765 件	○	DB 登録数
「美唄郷土ポータルサイト」を活用する生産者、市民や美唄ファンの会員登録。	登録件数 300 名 (H19 から累計 800 名)	932 名	○	会員登録件数
地域交流機能(SNS)の会員登録。 開設ブログによる情報交換数	登録件数 50 名 (H19 から累計 100 名) DB登録件数:100 件	107 名  148 件	○	会員登録件数
美唄の知名度を向上を図るために、「美唄郷土ポータルサイト」の PV 数(露出度)の増大を図る。また、連携する他サイトからの PV 数の増大を図る。	ポータルサイト PV 数 50,000PV/月 他サイトからの PV 数 20,000PV/月	83,661PV/月 (3/1~3/30)	○  ×	PV数
上記(N0.1~7)及び協議会活動等により、生産者、消費者、住民の交流を促進し、食を通じた地域の活性化を図る。	交流者(事業参加者)数 ・生産者 50 人(類計) ・協議会 16 団体 ・消費者及び住民(会員数) 800 人(累計) ・SNS 登録者 100 名(累計)	・生産者 70 人 ・協議会 16 団体 ・消費者及び住民(会員数) 932 人 ・SNS 登録者 107 名	○	事業参加者数
農産品・特産品のインターネット販売や農産物直売所で安心・安全な食品の提供を行うことにより、販売件数および販売額の増加(新規)	販売額 10,000 千円/年	9,852,205 円	△	販売額

※現状数値は平成 21 年 3 月 30 日現在

### 3. 達成見込みが△又は×の場合はその理由

「連携する他サイトからの PV 数」について、システムのリリースが 3 月下旬であったため、現在は連携するサイト側への事業説明や利用方法の確認を行っています。システムとしては運用可能であるため、現在はポータルサイト PiPa 及びシステム開発事業者のホームページで運用を行っていますが、他の自治体や観光団体などの反応は良好で、連携の輪が広まるにつれて PV 数が増加する予定です。

「インターネットならびに農産物直売所での販売額」においては 99%の達成率でしたが、直売所については販売が好調でありましたが、インターネット販売開始が 6 月後半とスタートが遅かったことと、品目が少ないという課題等により目標未達成となりました。

21 年度以降、さらに取扱い品目を増加させ、メール等を利活用した営業活動に注力することで一層の売上げ確保を図ります。

## <委託業務説明書>

### 1 平成20年度事業実施において明らかとなった課題

平成19年度事業実施の中から抽出した課題について、解決の取り組みとして推進中である平成20年度事業において、住民視点や民間ノウハウから解決するための手段や方策、有り方を検討し、システムや事業運営に反映するために、農業及び商工団体、生産者、消費者等が協働で取り組みを進めてきました。事業推進により現時点において明らかになった課題を整理し、今後に向けた新たな課題として図表1に示す11点が整理され、以降、解決に向けて取組みます。

図表1 地域ICT利活用モデル構築事業において整理された今後の課題

No	今後、解決が必要な課題
①	<p>・トレーサビリティにおける体制 平成20年5月から農産品・特産品販売管理システムの運用を開始した農産品直売所「ぴばま〜と」において、商品に「顔の見える安心」を付加して商品価値の向上、集荷、販売の高効率化などを実現しました。しかしながら、今般の食品事故や偽装などが頻発し、北海道の商品イメージ低下についても憂慮する事態となっています。</p> <p>地域ICT利活用モデル構築事業の取り組みを通じて「農産品・特産品販売管理システム」へのトレーサビリティ機能の必要性が検討され、平成20年度事業において開発中ではありますが、トレーサビリティを利用し運営する上での、担保や生産ガイドライン、各種規則についての広い認識や個別スキル標準化などを解決する必要があります。</p> <p>今後は全国のトレーサビリティ先行事例やアグリビジネスにおける活用事例などを多く知識として収集する中から、より高付加価値を持つ安心で安全な美唄市の農産品としてのブランド力を強化するための方法を検討することが重要と考えます。</p>
②	<p>・ブロードバンド環境 地域ICT利活用モデル構築事業にて開発した美唄ファンポータル「PiPa」(ピパ)の会員(美唄ファン)や利用者数が順調に増加するなかで、都市圏の利用者に対し地域内での利用度が低いという課題があります。</p> <p>美唄市の農業者は北海道の幹線である国道12号線を挟んだ東西に広く分布し、農産品などを宣伝し、露出を高める本事業の機能である情報投稿や開発を進めているトレーサビリティ機能、PiPaコミュニケーション(SNS)などの利用について、この地域の多くがブロードバンド通信できない現状が強く影響しているものと考えられます。</p>
③	<p>・能動的露出の必要性 ポータルサイトへのアクセス数は順調に増加していますが、月によってはバラつきも見られ、日常的に常時多くの人にアクセスしてもらうのは、現実として困難です。</p> <p>PiPaの会員(美唄ファン)を増やし、露出を高めるためには、魅力的な情報を受動的に並べるだけではなく、プッシュ型のツールを活用してアクセスしてもらうための手段を講じる必要があります。</p> <p>今後はポータルサイト運営により蓄積した、美唄ファンや商品購入者に対してのメールでの案内やメールマガジンなどを利用したサービスの充実を行うことで、より一層の集客と露出を実現します。</p>

No	今後、解決が必要な課題
④	<p>・ I Tスキル向上</p> <p>平成20年度事業における地図との連動や移住支援、産業ポータルなどによって、利用者における機能性が向上することについては、利用者における I Tスキルの一定以上の確保が前提となります。 実際にはその急激な変化に対する利用者の I Tスキルが追従することが難しく、期待したほどの効果をもたらしていないのが実状です。</p> <p>本事業の情報提供者となる農業生産者などは高齢化しており、機器類への嫌否感や、学習意識があっても民間の I T講習などには踏み出せない状況であることなどが本事業への参加を躊躇させる要因の一つにもなっています。</p> <p>今後は I Tスキルレベルを向上させるべく、レベルに応じた講習会などの活動が必要と考えます。</p>
⑤	<p>・ 情報分析の必要性</p> <p>平成19年および平成20年事業にて収集されたアクセスについての履歴は、ポータルサイトにおける今後のW e bマーケティングへの重要な情報源です。</p> <p>S E O対策も考慮した上で、大手検索サイトで使用されたキーワードや来訪の目的などから分析した地方ならではの資源を使った戦略的なポータルサイトの運営が必要です。</p>
⑥	<p>・ 能動的情報収集</p> <p>利用者がポータルサイトに掲載される情報について何を求めるのかを認識し、ニーズにマッチした地域情報を提供したり、新たな地域資源を認識、確保するための方法が乏しく、現状においては問い合わせによる意見や、ブログシステム(平成20年度開発中)のコメントによるものしか経路は無く、設問に対する調査の方法はありません。</p> <p>今後において簡易にアンケートを作成集計し美唄ファンが利用できる機能を付加することで、より効果的な情報発信や利用者増大の方策をとることが可能です。</p>
⑦	<p>・ 移住希望者の利便性向上</p> <p>官民の連携による美唄市移住・定住推進協議会において、移住希望者の個別リクエストに対応するコンシェルジュとして、美唄で提供される各種サービスをコーディネートすると共に、移住・交流に関する情報を集約し提供するワンストップの相談センターとしての機能を果たしています。</p> <p>平成20年度事業において、マッシュアップによる地図を活用した移住情報の発信を行うことで、移住に関する記事に対するアクセス数の増加を始め、移住希望者からの問合せが増加することとなりますが、現在では移住希望者からの問合せや各種申請が電話やF A Xとなり、今後の移住宿泊施設への申し込み増加を想定した場合、現在の体制ではリアルタイムな対応が出来ないという課題があります。</p> <p>これらの課題に対し、移住に関する各種申請や問合せがインターネット上で行え、汎用的に利用できるセキュリティの高いシステムが必要です。</p>
⑧	<p>・ 大口注文への対応</p> <p>平成19年度に構築しました「農産品・特産品販売管理システム」は、顔の見えるインターネット直売システムやトレーサビリティシステムとの連動により、消費者に信頼される安全・安心で良質な農産品の提供だけでなく、繁忙期でも効率的な農作物の搬入が可能になり、休日に起こる欠品や売れ残りを解消でき、生産者は無駄な搬入を行うことがなくなりました。</p>

	<p>しかし、近隣ホテルから大口注文を受けた場合などは、電話で生産者へ出荷を依頼していましたが、生産者（会員間）の公平性を保てないという課題がありました。</p> <p>これらの課題を解決するため、大口注文を受けた場合に注文の内容を全会員（生産者）へ一斉にメールで伝え、生産者間の公平性を保つと共に会員（生産者）の更なる販売意欲の向上に繋がるシステムの構築が望まれています。</p>
⑨	<p>・更なる媒体価値の向上</p> <p>平成19年度に構築しました地域コミュニケーションシステム（SNS）は、同じ空間の中で安全・安心な情報を共有する居心地の良い環境コミュニティの意見交換の場として利用されていますが、折角の良い意見交換の内容が公開出来ない、会員制のため検索エンジンからのアクセスすなわちサイト全体のPVに繋がらない等の課題があります。</p> <p>これらの課題を解決するため、情報公開による口コミ効果や新たな美唄ファンの創出、サイトのアクセス向上の一つの手段として、SNS内で利用者が情報の公開範囲を自由にコントロールできるようにします。</p>
⑩	<p>・外国人観光客の促進</p> <p>訪日外国人の動機とその行動などについて、約60%が事前に訪日に関する情報を収集していると言われています。また、北海道においては北海道洞爺湖サミットなどによって知名度は高まり、昨年度は約71万人の外国人が北海道を訪れています。</p> <p>このような背景の中、美唄においても外国人観光客の取り込みを行っていますが、未だ高い成果は現れておりません。これらの課題（美唄が外国人観光客を獲得し増やすため）を解決するには、美唄ファンポータル「PiPa」の多言語対応が急務であると考えます。</p> <p>美唄市の短期大学には数十人の留学生がおり、この外国人留学生からの視点による美唄市の食や文化・歴史、観光等の素晴らしさを体系化して、わかりやすい情報として発信することが望まれます。</p>
⑪	<p>・蓄積データの有効活用</p> <p>美唄ファンポータル「PiPa」に蓄積されたデータを、後世に残す情報価値のある郷土文化教育へ応用するための有効活用が課題となっています。</p> <p>これらの課題解決に向けて、住民が一体となって「美唄百科電子ブック」を構築し、美唄の歴史や文化、自然、人々の営みを大切に地域であるとのメッセージを広く発信すると共に、環境先進地や美唄ブランドの発信ともあいまって、美唄に対する好印象をさらに強く広く多くの人々に紹介する事が期待されています。</p>

## 2 自律的・継続的運営の見込み

平成19年度及び20年度の地域ICT利活用モデル構築事業により構築する各システム構成は、地域情報プラットフォームに準拠されており、各サブシステム単位での運用が可能で、下記の切り分け案による運営を検討しています。

(A) 関連機器、基幹システム、情報提供・収集サブシステム、地域コミュニケーションサブシステム、ブログサブシステム、地図基本サブシステム、地域ポータル連携サブシステム等はPiPa運営

協議会（仮称、市及び関係機関で構成）による管理運営を想定しています。その際の管理運営経費、保守経費等は構成団体の負担金を予定しています。

（B）農産品・特産品販売管理サブシステムは利用団体が管理運営を想定しています。その際の保守経費等は売り上げの一部で対応することを予定しています。

（C）インターネット直売サブシステムは利用団体が管理運営を想定しています。管理運用経費、保守経費等は売り上げの一部で対応することを予定しています。

（D）産業振興支援サブシステムは利用団体が管理運営を想定しています。保守経費等は利用団体の負担金で対応することを予定しています。

また、地域ICT利活用モデル構築事業において情報集約を進めている農産品・特産品及び地域資源等の情報発信をさらに進めるため、平成21年度において、市の基幹道路（札幌市と旭川市を結ぶ国道12号線の間地点。）沿いに情報発信拠点を仮設し、平成22年度以降には食の駅の建設（道の駅として整備）を計画しています。これらにより、バーチャル（インターネット）からリアル（拠点施設）への発展及び融合を図ることで、事業成果を大幅に拡大するとともに、開発システム等の運用基盤を構築します。

美唄市では、これら自律した継続運営の実現に向けて以下の環境を構築し、これらかも推進していきます。

#### 【自律した継続運営実現のポイント】

- ①美唄市地域ICT利活用モデル構築事業推進協議会を柱とした広告収入を得るための継続連携
  - ・美唄市と地元の商店街や商工会議所などの産業振興団体が連携し、地元個店や商品を対象とした安価な広告費（広告主の負担を軽減）による継続的かつ多角的な広告収入支援
  - ・ホームページを保有しない地元商店や企業を対象とした広告環境の提供（ブログ、CMS）
  - ・広告効果とメリット拡大に向けた取り組みの推進（メールマガジン、Webアンケート、ログ分析のマーケティング利活用）
- ②広告主の多様化したニーズに対応したバリエーションある広告メニュー
  - ・地元商店や企業を対象とした豊富な広告メニュー（バナー広告、テキスト広告、動画広告等）
  - ・地元商店や企業のみならず、ナショナルブランドからの広告取得可能な仕組みの提供（地域間情報連携と移住コンテンツ）
- ③コンテンツ更新費用削減に向けた取り組みの推進
  - ・美唄ファンの視点を重視した市民（美唄にゆかりのある方々を含む）参加型による、新鮮な記事更新の仕組みの提供と推進（記事投稿システム、ブログ）
  - ・広報活動等による地元住民利用の活性化に向けた周知の推進
- ④バーチャルとリアルの融合による集客増の取り組みの推進
  - ・インターネット上のポータルサイトに加え、情報発信を行うリアルな拠点を設置し、各システムとの連携を図ることで更なる集客の増を図る。

### 3 今後の展開方針

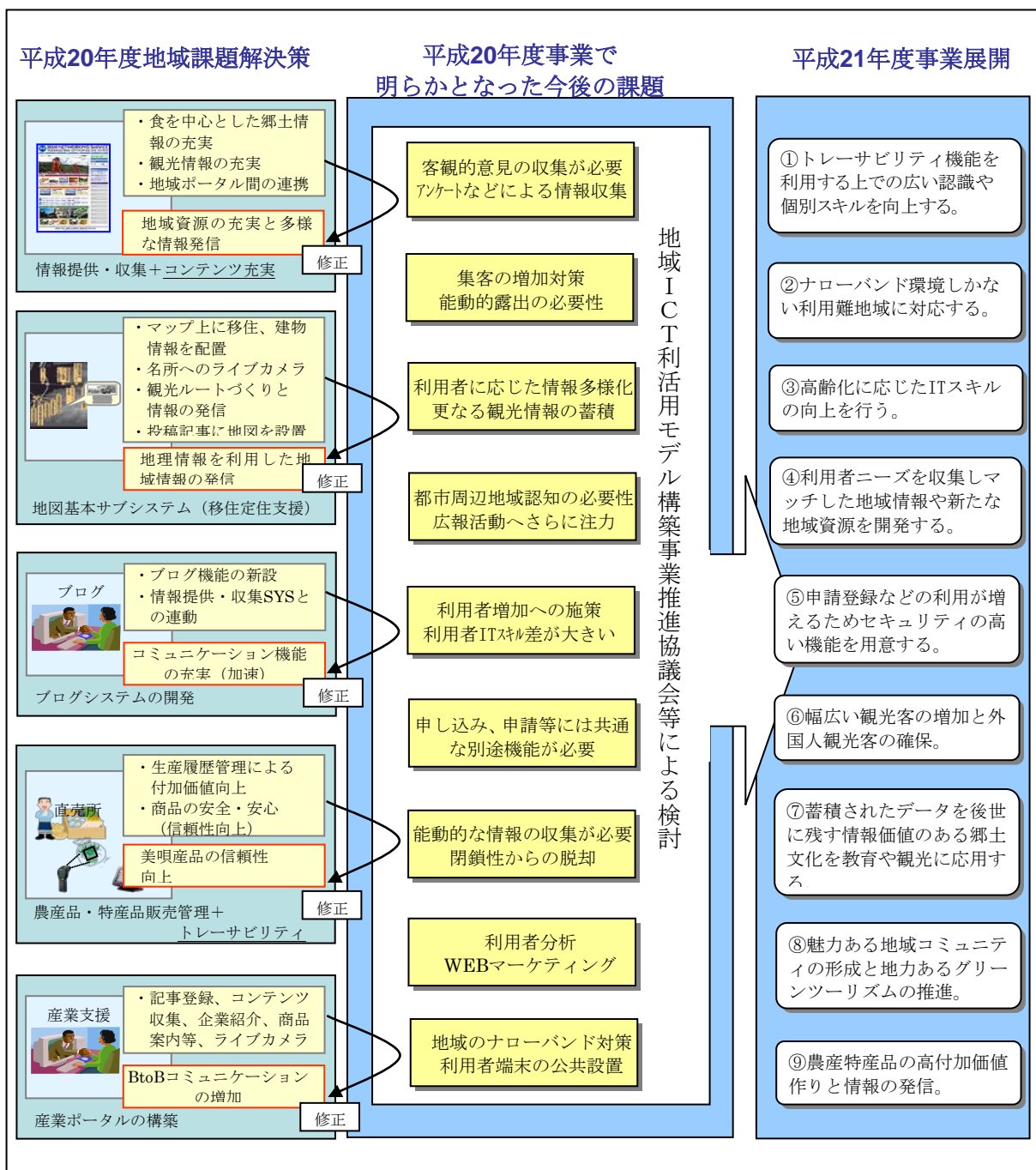
#### (1) 基本方針と平成20年度の展開方針（事業開始時）

平成20年度事業においては継続して、下記の4つの基本方針を推進してまいりました。

- ① 美唄というブランドを形成し、美唄市の価値を創造します。
- ② 美唄市民にとって、地域を知り、地域への誇りを醸成するサイトとします。
- ③ 魅力的なコンテンツにより集客力を高め、サイトの価値を向上させ、ポータルサイト事業の収益モデルとして成功させます。
- ④ 美唄市民との協働によるコンテンツの創造と運営を進めます。

上記の基本方針から地域の課題解決と住民の生活環境向上に向けた先導的・モデル的な取り組みとしての事業推進、美唄ファン（行政、農業及び商工団体、生産者、住民等）の協働によりICTを利活用した継続的な取り組みを行いました。

そのなかで明らかとなった上記「平成20年度事業実施において明らかとなった課題」の解決にむけ予定する、平成21年度の事業展開を以下に示します。

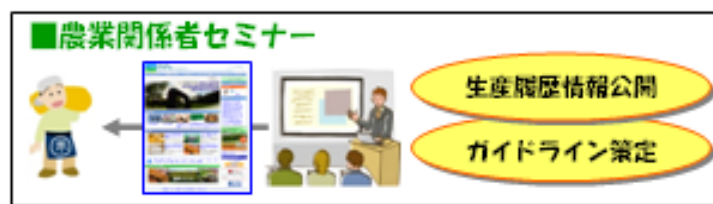


## (2) 平成 21 年度事業内容詳細

### ①農業関係者セミナー

平成20年度において、平成19年度に構築した「顔の見えるインターネットシステム」にトレーサビリティ機能を配備しました。トレーサビリティを実施するにあたっての、生産履歴および流通履歴の考え方を整理したうえで、生産者が行う生産履歴入力・点検作業の省力化を最重要視しながらも、消費者の安全・安心に対するニーズに対応した生産履歴の公開を行うことが望ましいと考えています。

しかし、生産者のトレーサビリティの必要性につきましては、現段階でまだ消費者ニーズとのギャップが見受けられます。これらの課題に対して、協議会が中心となり生産者に対しトレーサビリティの必要性とあり方に関するセミナー等を実施し、トレーサビリティを利用し運営する上での、担保や生産ガイドライン、各種規則についての広い認識や個別スキル標準化などを協議会と生産者が一体となって解決する必要があります。セミナーなどの情報は情報提供収集サブシステムにおけるコンテンツとしてDB化することで、安定した経営確立や消費者に信頼される担い手の育成に役立つことが期待されます。



### ②携帯電話対応

平成19年度にコミュニケーションの形成を目的としたSNSシステムを構築しました。しかし、利用者の期待や利用頻度を高めるためにも、今後モバイルへの対応が求められています。

特に観光が地域経済を支えている美唄市では、利用者の多くが手軽で便利な携帯電話等を利用することが予想されることから、駅や各観光施設、宿泊施設、飲食店などで携帯端末から観光客が容易に美唄ファンポータル「PiPa」へアクセスし、必要な美唄市の地域情報を簡単に入手することが可能となり、より観光客への利便性が高める必要があります。

また、美唄市全域にブロードバンド環境が整備されていないという状況から、美唄ファンポータル「PiPa」においての会員(美唄ファン)や利用者数が順調に増加するなかで、都市圏の利用者に対し地域内での利用度が低いという課題があります。

本事業で構築した、会員(美唄ファン)が住民視点で美唄に関する情報を投稿出来る情報提供・収集システムは、美唄ファンポータル「PiPa」の記事更新が常に行われ、サイト内の新鮮さや活性化を保つ意味でも重要な機能であり、このサイトを携帯電話対応にすることで、より画像や動画の投稿、記事の充実が図られるものと考えます。

近年の携帯 SNS の急成長ぶりは著しく、中高生や女性・主婦層のインターネットアクセスに利用される端末は携帯電話が約4割以上を占めています。こうした背景からも低年齢層・若年齢層、女性層などを対象ユーザーに含むコミュニケーションシステム(SNSやブログ)の利用度向上にも繋がり、更なるサイトの媒体価値が向上するものと考えます。





### ③情報セミナー

平成19年度事業において構築した、美唄ファンポータル「PiPa」を介在して提供される様々なサービスは、利用者の操作性を重要視して設計を進めてきました。

しかし、新たに平成20年度事業で構築したマッシュアップ地図との連動や移住支援、産業ポータル等、多くの機能の追加によって、システムの機能が向上しました。しかし反面、利用者におけるITスキルの一定以上の確保が課題なることで、高齢者など一部の住民にとっては、システムの機能を十分発揮させるべく利用をすることが難しいのが実状です。特に本事業の情報提供者となる農業生産者は高齢者が多く、機器類への嫌否感や、学習意識があっても民間のIT講習などには踏み出せない状況であることが、本事業への参加を躊躇させる要因の一つにもなっています。今後はITスキルレベルを向上させるべく希望者を募り、レベルに応じた講習会などの活動が必要と考えます。

講習会などの情報は情報提供収集サブシステムにおけるコンテンツとしてDB化することで、オンデマンドな利用とスキルアップへの意識向上に役立つことが期待されます。



### ④簡易アンケート作成サブシステム

美唄の農産品・特産品のブランド化において、実際に食した方や購入を希望している方、興味を持っている方の生の声がとても重要です。また美唄の新たな地域資源の掘り起こしや商店街、商工会議所等の産業活性化に向けても同様です。このような背景から協議会においても、市場調査やお客様の声を美唄ファンポータル「PiPa」を介し、スピーディに収集可能とする有効なツールである簡易アンケート作成サブシステム」が強く求められています。

「簡易アンケート作成サブシステム」の構築にあたっては、利用者が美唄の生産者や企業の方であることを考慮すると、煩雑なシステム設定を行うことなく簡単でかつ迅速に利用できることが望まれます。

このように、Web アンケートの結果をすばやく活動に反映するために、用途に応じ計数系データによる分析も容易に行え、消費者が何について、どのように評価しているか等、消費者や利用者の思いを吸い上げ、農産品・特産品のブランド化や類似商品との差別化、美唄市内の企業施策の向上に繋げるために活用可能なアンケート作成を支援するシステムが望まれます。



## ⑤ 申込受付サブシステム

美唄市では、少子高齢化による人口構造の特性から人口減少の進行は避けられない状況にあり、移住による人口増加は重点課題でした。これら課題の解決に向けて平成20年度事業において、低価格で充実したサービス提供が可能なマッシュアップによる地図を活用し、地図と情報が融合した移住情報の発信を行いました。特に他地域との移住サイトの差別化として、平成19年度に構築した情報収集・提供システムを活用し、美唄に住んでいる方、働いている方を対象に美唄住民視点からの美唄での生活観をリアルに伝える情報の登録(記事投稿)により内容の充実化を図った事で、移住に関する記事のアクセス数の増加を始め、移住に興味を持っている利用者からの問合せが増加しました。

このように移住の情報が充実し始めた中、毎年、移住ツアーを実施していますが、申込受付方法や問合せ方法は従来の電話やFAXのみであり、利用者からシステム化による申請受付(問合せを含む)が求められています。平成21年度は移住に興味を持っている利用者が、気軽かつ便利に問合せや各種申し込みが行える「申込受付サブシステム」を構築し、更なる移住の促進を図る予定です。また、このシステムは移住に関するワンストップサービスに閉じることなく、美唄市のイベントや施設の予約等の各種申し込みを活用し多くの住民に利用してもらうことで、電子申請を始めとした国が進める住民サービスの利便性を住民に対して理解を深めてもらい、利用の促進向上に資するものと考えます。



## ⑥ 観光情報の外国語対応

美唄市では社会的に評価の高い観光資源がありながらも、なかなか知名度が上昇していないという課題に対し、平成19年度で観光情報の充実並びに平成20年度でマッシュアップ技術による地図を活用した情報提供を行い、観光客の入り込み客数の増加を図ってきました。このような状況の中、美唄市を始めとした北海道は広大な自然や独特の食文化を有しており、平成19年度で約71万人以上の外国人観光客が訪れており、北海道洞爺湖サミットによって更に北海道の知名度は高まりました。これら北海道の知名度を活かし、美唄が外国人観光客を獲得し増やすためには、美唄ファンポータル「PiPa」の多言語対応が急務であると考えます。外国人観光客の多くがインターネットで事前に観光情報を得ている状況の中、団体による観光スタイルは元より、通訳やガイドなしで旅行する個人スタイルも今後着実に増えることが予想されるため、外国人視点による情報提供が強く望まれます。

美唄市の短期大学には現在数十名の留学生がおり、この外国人留学生からの視点による美唄市の食や文化・歴史、観光等の素晴らしさを体系化して総合的で、わかりやすい情報として発信し、国内観光客同様に外国人観光客の増加を図り、美唄を「通過するまち」から「立ち寄るまち」に繋がるものと考えます。



## ⑦美唄百科電子ブック

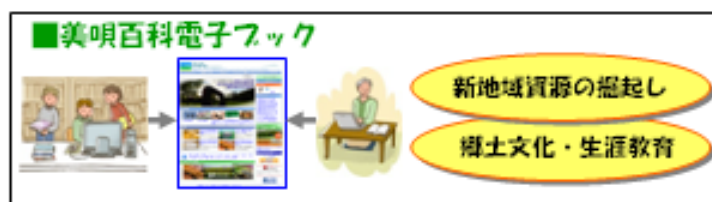
美唄ファンポータル「PiPa」に蓄積されている住民からの投稿記事や特集記事、地域資源を活用した地域づくりを「美唄百科電子ブック」として提供、公開します。

この美唄百科電子ブックは、単なる歴史や文化の紹介鑑賞物ではなく、住民視点における美唄の生活や歴史の脈絡の中から育ち、守り育てられてきたものを紹介するのではなく、その背景や美唄の姿が浮かび上がり、美唄の生活自体に関心を持ってもらえるような内容を目指します。具体的には、情報に深みを与え、ストーリー性を持たせるために、地域そのものの生活や行事、それらを支えて来た人々等を交えて深く掘り下げて地域を紹介します。この様な視点で美唄をより詳しく紹介することによって、美唄市住民の今まで地域の歴史文化に関心が薄かった人々や、地域外の人に地域をより詳しく知り、伝えることが可能となります。「美唄百科電子ブック」は、地域そのものを守り育てていくことに繋がっていくことが期待されると共に、ニーズが多様化している観光客の新しい余暇ゾーンづくりへの活用や新たな地域資源の発掘も期待出来ます。

また、過去に美唄へ住んでいた人々に、記憶を再生し、美唄への思いを振り返っていただき、住民には美唄の文化や歴史、地域の生活・産業の情報を広く、深く伝えていくためのアプローチが重要です。これらの情報は単に文化や歴史のアーカイブに留まらず、子供たちが参加して創り上げる仕組みを構築することで、地域や身の回りにある新たなアーカイブ素材を掘り起し、後世に残す情報価値のあるテーマを発見し、郷土文化教育への応用も可能とすることが必要です。

これら住民が一体となった活動を進めることは、美唄が歴史や文化、自然、人々の営みを大切にする地域であるとのメッセージを広く発信することであり、美唄ブランドの発信ともあいまって、美唄に対する好印象をさらに強く広く多くの人々に紹介する事が可能となります。

美唄百科電子ブックインターネット上での閲覧はもとより、ダウンロードや紙媒体としても提供可能であり、地域の観光拠点などで活用されることが期待されます。



## ⑧グリーン・ツーリズムの更なる推進のための交流環境整備の充実

既にグリーン・ツーリズムについては、市内において様々な取組みが進められており、今後、リピーターを促進するためには、他地域にはない魅力づくりが必要です。そのためには、農作業体験、直売所、農家民宿等の運営を担う農家だけでなく、食材の供給や自然体験プログラムと場の提供など、地域交流とネットワークを強化する必要があります。

現在、美唄市には「美唄グリーン・ツーリズム研究会」や「美唄こめこ研究会」、「農産物直売所びばま〜と」など多くの関係団体があり、それぞれが独自に熱心な活動を行っています。しかし、現時点では情報を共有及び連携する機会が少なく、さらに他の地域との情報交換や交流も進んでいるとは言えません。グリーン・ツーリズムの促進による「地域コミュニティの

形成」、「交流活動の活性化」、「地域経済の活性化」に向けては、将来的には全住民が「美唄市グリーン・ツーリズム」の理解者として、協力体制をつくりあげていく必要があります。そのためには、まず各々組織や団体、住民自らが美唄の魅力に気づき、引き継がれてきた農の営み、生活・文化・伝統・自然などの価値を見直し、守り、育てていくことが大切であり、そのための連携できる環境整備が重要です。これらの結果が、相互に支え合いながら積極的に地域の課題を解決できる、「活力ある地域づくりを自主的に行う活動が広がるまち」に繋がっていき、地域の新たな活力を生み出していくものと考えます。



#### ⑨効果的な農・特産品高付加価値情報の発信

北海道の田園風景が広がる穀倉地帯にある美唄市は農産品や特産品に対する研究向上心も高く、「雪蔵工房米」、「ハーブ米」、「アスパラ」、全国一の収穫量を誇る「ハスカップ」などの農産品に加え、「米粉」に代表される農産加工品、歴史ある「やきとり」、「とりめし」などが評判を呼び、一躍ブームになるなど地域ブランドになりつつある価値の高い特産品も存在します。

このような農特産品は美唄が誇る郷土資源ではありますが、情報の共有や産品の一元化はまだまだ進んでおらず、これらの郷土資源を発信する総合窓口機能等について、現在、整備の検討を行っております。

美唄の農特産物が安全・安心を基本に、他地域の農産物に比べ優位に立てるよう、個性や魅力を活かした他地域との差別化を図り、地域ブランド力を向上していくための仕組みの構築と効果的な情報発信が重要となります。



## <実施体制説明書>

### 1 実施体制

美唄市 I C T 利活用モデル構築事業推進協議会	
(目的)	情報通信システムの仕様の決定のほか、構築したモデルを継続的に運用するための体制、費用負担の在り方、モデル運営による課題解決のための具体的な行動計画、役割分担等について検討
美唄市	農政部門、交流観光部門、産業振興部門、情報部門など
生産者団体や移住団体等	美唄観光物産協会、美唄地産フード研究会、美唄こめこ研究会、おいで菜祭、農産物農産直売所びばま〜と、中村えぶろん倶楽部、ピュアファクトリー、ライスクラップ 農協青年部、元氣招会、青年会議所、気ままな主婦の会、農協蔬菜部会、美唄市新産業創造研究会、美唄市移住・定住推進協議会など
有識者・オブザーバー等	北海道企画振興部、北海道空知支庁地域振興部、 地域振興・移住・ブランディング・ポータルサイト等に係る有識者など

### 2 各主体の役割

NO	氏名・団体名	役 割
1	美唄市	実施主体。協議会の運営
2	美唄観光物産協会	美唄の観光物産品についての広報活動や実績から本事業への助言及び協力。
3	美唄地産フード研究会	地産地消の取組や加工品開発などについて助言及び協力。
4	美唄こめこ研究会	農産加工品などについての効果的利用法及び研究成果の活用などについて助言及び協力。
5	おいで菜祭	観光農園、農産物直売などの運営実績から本事業へ助言及び協力。

6	農産物農産直売所ぴば ま〜と	観光農園、農産物直売などの運営実績から本事業へ助言及び協力。
7	中村えぶろん倶楽部	農産加工品などについての効果的利用法及び研究成果の活用などについての助言及び協力。
8	ピュアファクトリー	観光農園、農産物直売などの運営実績から本事業へ助言及び協力。
9	ライスクラブ	農産物直売、インターネット販売などについての助言及び協力。
10	美唄市農協青年部	安心・安全な特色ある農産物の確保や効果的な販売方法などについての助言及び協力。
11	元氣招会	安心・安全な特色ある農産物の確保や効果的な販売方法、インターネット販売などについての助言及び協力。
12	美唄青年会議所	美唄の地域資源 PR、ブランディング等についての実績から本事業への助言及び協力。
13	気ままな主婦の会	農産加工品などについての効果的利用法及び研究成果の活用などについての助言及び協力。
14	美唄市農協蔬菜部会	安心・安全な特色ある農産物の確保や効果的な販売方法などについての助言及び協力。
15	美唄市新産業創造研究会	産業振興に係る企業間の連携や企画等についての助言及び協力。
16	美唄市移住・定住推進協議会	移住・定住に係る関係機関の連携や企画等についての助言及び協力。
17	北海道企画振興部 IT バイオ振興局情報政策課 (オブザーバー)	共同アウトソーシング、地域プラットフォームの観点からシステム構築方法についての助言。
18	北海道空知支庁地域振興部 (オブザーバー)	地場産業、農業、企業間の協働および連携についての効果的活用などの助言。
19	地域振興・移住・ブランディング・ポータルサイト等 に係る有識者(有識者)	地域振興や移住促進、ブランディング促進、ポータルサイト運営等に係る助言。

## 事業実施進行表

実施内容	H20						H21		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会開催						△			△
	※部会は随時開催								
システム基本設計	→								
システム詳細設計			→	→	→	→			
コンテンツ設計、取材			→	→	→	→	→	→	
システム開発						→	→	→	
開発システム稼働									→
H19年度システム運用									→
報告書作成								→	

## その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

<http://www.pipaoui.jp/>



## 平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名： 美唄市  
代表団体名： 同上  
事業名称： 美唄郷土情報による地域活性化モデル事業

## 1 概要

地域の魅力ある農産品・特産品などの知名度を向上し、地域の活性化を図るべく、平成19年度に「美唄ファンポータルP i P a」（以下P i P a）を構築いたしました。P i P aでは、美唄市の農産品・特産品の魅力や歴史、生産者の思いなどを投稿により伝え、ブログやSNSで地域交流を可能とするなど、美唄ファンによるまちおこしを推進しています。平成20年度事業においては、ブログサブシステム、地図基本サブシステム、地域ポータル連携サブシステム、産業振興支援サブシステムを新たに実装し、平成19年度に構築したサブシステムの機能拡張を行いました。

## 2 運用結果

- ・ブログサブシステムの構築により、双方向性を持った交流の場が促進されており、利用が進むにつれ検索エンジンでの露出度が高いブログ特性によって、更なる美唄ファンの創出が期待できます。
- ・地図基本サブシステムの構築により、地図情報に他システムの豊富な地域情報が連携することで、コンテンツの魅力が高まりました。これにより、更なる美唄ファンの創出や移住・定住推進などが期待できます。
- ・産業振興支援サブシステム及び地域ポータル連携サブシステムの構築により、新たな広告形態の創出や地域間連携の促進が期待できます。

## 3 課題・改修の必要性

- ・利用者（会員）及びポータルサイトへのアクセス増を図るため、メールやメールマガジン等のプッシュ型ツールの利活用が課題となっているため、平成21年度においてシステムの拡充を行う。
- ・安心安全な地産の食が徐々に浸透するなかで、本システムが稼動する農産品直売所では店頭販売のほかに近隣ホテル等などからの大口注文が増加しているため、従来システムの機能拡充が課題となっているため、平成21年度においてシステムの拡充を行う。
- ・利用者のユビキタス化を加速するため、携帯電話に対応するユーザーインターフェースの拡張とともにコンテンツの拡充が課題となっているため、平成21年度においてシステムの拡充を行う。
- ・機能の拡充等により、利用者（会員）におけるICTスキルの向上が課題となっている。
- ・市内においてはブロードバンド通信が出来ない利用者（会員）がいることから、市内の利用率が低いという現状がある。このため、市内におけるブロードバンド環境の構築が課題となっている。

## 4 その他

特になし。